

県医師会の動き

副会長 吉本 正博

来年 4 月の診療報酬・介護報酬同時改定に向けて、財務省が「2%半ば以上のマイナス改定が必要」とジャブを出してきました。そのためには「薬価」部分だけでなく、医師の人件費などの「本体」部分も引き下げたい考えであるとメディアは伝えています。すべてのメディアが「本体」部分を医師の人件費や技術料としていうのは、おそらく財務省の発表がそうになっているからで、そこに意図的なものを感じ、違和感を覚えます。国民所得は上昇していないのに、医師の所得である診療報酬「本体」を引き上げるのはおかしいのではと国民に思わせようという意図を感じます。

10月7日(土)に平成29年度日医総研セミナーが日本医師会館で開催され、本会からは中村 洋理事が参加しています。今回は「生命倫理についてー終末期を迎えるにあたってー」という非常に重いテーマについて、3つの講演がありました。安楽死についてはオランダ、スイス、ルクセンプルブ、そして米国の数州で法制化されていますが、日本ではまだ整備されておらず、終末期について家族と話し合っている人は4割、また事前指示書を持っている人はわずか3%というのが現状だそうです。厚労省も「人生の最終段階における医療の普及・啓発の在り方に関する検討会」を立ち上げ、本年8月3日に第1回の会合を開催するなど、本腰を入れ始めました。ただ、その議論が終末期医療費の抑制とリンクしないことを望みたいと思います。

10月7日(土)と8日(日)の2日間にわたり、**指導医のための教育ワークショップ**を開催しました。今回の参加者は14名と例年に比べ少なく、その分内容の濃い、参加者にとっては厳しい

2日間になったと思います。しかし2グループに分かれて、2日間とはいえ、同じ釜の飯を食べて議論を続けることで、他の病院の先生方と親密になれたことは、今後の大きな財産になると思います。

10月8日(日)には**勤務医部会座談会**が開催されています。今回のテーマは「研修指導医の本音と課題の対応」でした。『勤務医ニュース』に掲載されますので、詳細はそちらをご覧ください。

10月14日(土)に**男女共同参画・女性医師部会地域連携会議**を開催しました。本会の男女共同参画部会の各ワーキンググループの最近の活動を紹介した後、各都市医師会の活動状況、問題点等について協議を行いました。各都市とも企画協力者・参加者が固定し参加者が増えない、若い医師の参加が少ない等の問題を抱えているようです。

全国医師国民健康保険組合連合会 第55回全体協議会が、10月20日(金)に近畿ブロックの引き受けで奈良市で開催されました。この会は毎年金曜日に開催されます。その後の土・日曜日には、希望者に対して5つの観光コースが用意されています。小田悦郎 前理事長の代理として代表者会議に出席した際、観光を取りやめること、開催日を土曜日とすることを提言したのですが、情報交換の場として有意義であることや観光を楽しむにしている人が多い等の理由で、廃止されず、旅行代理店が企画・実施する観光に変更し実施されています。

しかし、国からの補助金が年々減少するなど医師国保組合が置かれている厳しい状況を考慮すれ

ば、業者一任の一般募集型旅行とはいえ、協議会後の観光については、取りやめるべきと現在も考えています。

山口県医師臨床研修推進センターは、県からの委託で山口県医師会が運営しています。その平成 29 年度第 1 回運営会議が 11 月 2 日（木）に開催されました。29 年度の医師臨床研修マッチング数は県全体で 89 人と過去最高でした。これは全国で 26 番目です。しかしながら 29 年 3 月末の研修修了者 67 名のうち、24 名が県外に転出しているという現状もあり、手放しでは喜べません。山口大学に残った者は 27 名（全修了者の 40%）でした。これに対して杉野法広 山口大学医学部附属病院長から、臨床研修改善プロジェクトチームを設置し、検討を行っているとの報告がありました。具体的には、1 次 2 次の救急医療とプライマリアケア研修を希望する研修医が多いので、学外の病院と提携して臨床教育センターを設置することとし、現在、宇部興産中央病院と連携のための協議を行っているとのこと。ポリクリ、クリクラにもこのセンターを活用する予定になっており、学生の段階から臨床研修プログラムの充実をアピールする狙いもあるようです。

日本医師会女性医師支援センター事業 中国四国ブロック会議が、11 月 4 日（土）に岡山コンベンションセンターで開催されました。会議の中で鹿島直子 日本医師会男女共同参画委員会副委員長から、「女性医師の勤務環境の現況に関する調査報告」が行われ、女性医師が仕事を継続していくためには、宿直日直時間外免除、医師増員、主治医制の見直し、病児保育、保育施設が必要との回答が多かったとのこと。女性医師の割合が高くなっている現状及び将来を考えると、医療の質を担保するためにも勤務環境の改善は、さらにスピードアップして実現する必要があると思われます。

11 月 5 日（日）、ホテルグランヴィア岡山で中国四国医師会連合医事紛争研究会が開催されました。この会は中国四国医師会連合の中の分科会

の一つで、医師会役員だけでなく顧問弁護士も参加して協議を行うのが特色です。このような形の研究会は国内では他にありません。今回の研究会では 2 医療機関が同時に訴えられた事案、介護施設で起きた事故への対応、患者の診療拒否への対応について等の協議が行われるとともに、医療メディエーターの養成とその活用及び派遣等について情報交換が行われました。医療メディエーター養成先進県である愛媛県では、県内の基幹病院には各 40 名、合計 800 名のメディエーターが所属しているそうです。

11 月 9 日（木）開催の広報委員会終了後、歳末放談会が開催されました。12 月号に掲載する関係上、毎年この時期に開催されます。今年のテーマは「2017 医療は今」で、AI と医療、医師の働き方—若手医師の確保—、高額医療費・高額薬剤について思うところを話していただきました。内容については本号に掲載していますので、ぜひご覧ください。

11 月 12 日（日）は県民公開講座「腸から若返る」を開催しました。恒例となったフォトコンテスト（今回で 8 回目）の表彰式、受賞作品の紹介の後、小林弘幸 順天堂大学医学部総合診療科・病院管理学教授による講演が行われました。小林教授は一般向けの健康読本を多数執筆されていますし、「世界一受けたい授業」等のテレビ出演も多く、山口県総合保健会館の多目的ホール（客席 800 席）がほぼ満席に見えるぐらいの来場者（約 530 名）があり、しかも例年より若年層の参加が目立つ盛況ぶりでした。

今年、没後 250 年を迎えたゲオルク・フィリップ・テレマンですが、日本ではあまり話題になっていないようです。テレマンの曲は、常に当時のヨーロッパの流行の先端を行く作風であり、18 世紀前半のヨーロッパにおいては随一と言われる人気と名声を誇っていました。生存中はバッハより人気があったそうです。また、クラシック音楽史上もっとも多くの曲（確認されているだけで 3,600 曲以上）を作った作曲家でもあります。ク

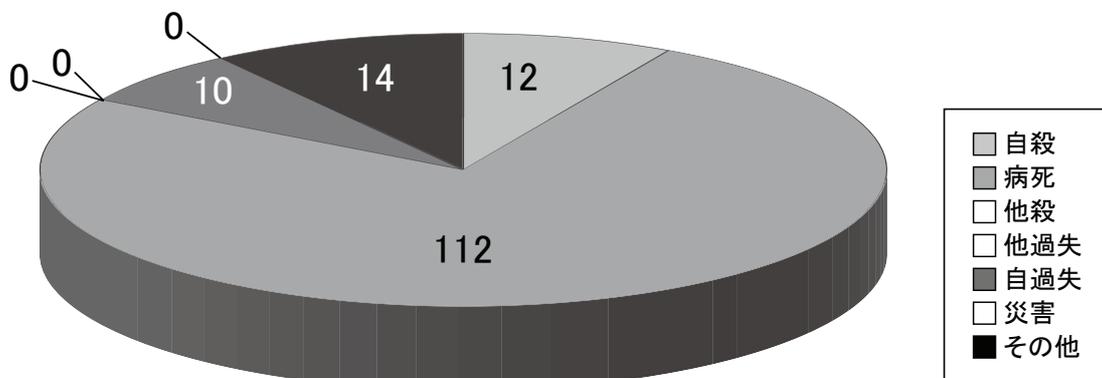
ラシック音楽を教養として捉え、深刻な顔をして聞き入る日本人の多くのクラシック愛好家にとっては、あまりにも洒脱で軽すぎる彼の音楽は、バッハやベートーヴェンに比べると一段下の音楽と見なされているようです。今回はテレマンの数多くの作品の中から「ターフェルムジーク」（食卓の音楽）を紹介したいと思います。食卓の音楽とは、王侯貴族や富裕階級の食事、宴会の際に食卓のかたわらで演奏される一種の社交音楽です。全3巻からなるテレマンの「ターフェルムジーク」は管弦楽組曲、四重奏曲、協奏曲、トリオ・ソナ

タ等の6種類の形式で18曲と多彩な組み合わせで構成されています。バッハの場合では、祝典用の作品でも何となく堅苦しく、襟を正さなければならぬ雰囲気を醸し出すのに比べると、比較的平明な主題から繰り出される洗練さと優雅さを併せ持ったテレマンのこの作品集は、まるでBGMのようにすんなりと馴染みやすく、最高の癒しの音楽と言って良いと思います。

死体検案数掲載について

山口県警察管内発生 の 死体検案数								
	自殺	病死	他殺	他過失	自過失	災害	その他	合計
Oct-17	12	112	0	0	10	0	14	148

死体検案数と死亡種別（平成 29 年 10 月分）



自動車保険・火災保険・積立保険・交通事故傷害
 保険・医師賠償責任保険・所得補償保険・傷害保険ほか

あなたにしあわせをつなぐ

損害保険ジャパン日本興亜株式会社 代理店
 共栄火災海上保険株式会社 代理店
山 福 株 式 会 社
 TEL 083-922-2551